



社協職員もコロナを吹き飛ばす気持ちで地域づくりを進めています!

コロナがなんだポイント①

生活福祉資金の特例貸付※1から安心できる生活へ!!

緊急小口資金の貸付相談で社協地区事務局(まちセン内)へ来た高齢者。相談対応中に本人から「**独り暮らして年齢的にも身体**の事が**心配**」と。ご本人が**安心して生活**するためには何が**必要**・・・?そこであんすこと連携※2した結果、あんすこ職員が定期訪問して経過をみていくという事になり、ご本人は安心して自宅へ帰られました。

※1 コロナの影響で収入が減り、困っている方に社協が窓口となって貸付を行っています
※2 まちセン・あんすこ・社協の三者が一体となった“福祉の相談窓口”をまちセンに設置



◆世田谷区社協での貸付申請受付件数:約15,000件 ※R2.7月現在
(緊急小口資金:約7,000件/総合支援資金:約3,000件/住居確保給付金:約5,000件)

コロナがなんだポイント②

コロナ禍がきっかけで地域活動をはじめる好機に!!

コロナの感染が拡大するまでスポーツの指導者として勤務していた相談者。しかし、感染が拡大するにつれ、勤務も自粛に・・・。そこで生活福祉資金の貸付相談に合わせて「**ボランティア**でも構わないから**子どもたちに自宅でも出来る事を教えてあげたい**」と。そこで、**貸付担当**(ぷらっとホーム)から



砧地域の**地区担当者**へ**バトンタッチ**!早速、地区担当者は**児童関連団体**へ繋ぎ、**現在、実現させる方向**で**企画**中!!





コロナがなんだポイント③

自粛中のサロン・ミニデイにも出来る支援を！！

- ❖ 団体の代表者などに**参加者**(特におひとり暮らしの方など)に対して電話などで**見守り**を依頼。当事者同士だからこそ得られる**安心感**が **Good!**
- ❖ 自粛中の過ごし方をインタビュー!皆さんの参考になれば、と**メルマガ**や**広報紙**で発信!!(例:遠回りして少し離れたスーパーに行っている。)
- ❖ 活動再開を望む団体に対して条件に合う形態を提案。(例:対局ではなく講義形式で行い、皆で知識を深める。)



◆ 砧地域の5地区(祖師谷・成城・船橋・喜多見・きぬた)各地区で毎月広報紙(地区通信)を発行中!!&メールマガジンなどで各地区の活動情報を月2回配信中!

メルマガ

フェイスブック

世田谷区社協
ホームページ

せたがや福祉団体
情報サイト



QRコード 読取りは こちらから!

繋がろう



見守ろう

きっとみんな不安を抱えているはず!
だからこそ、こんな時こそ、
繋がって・助け合って
乗り越えよう!!

電話で♪



手紙や作品で♪



郵便物や洗濯物が
そのまま



子育てに疲れてる?

